

「介護労働に関するアンケート調査」 報告書

従業員向け調査

令和4年1月

目的

- 本調査は、福岡市内の介護労働の現状を把握し、政策の推進に活かすために実施した。

実施概要

- 福岡市指定介護サービス事業所に調査票を郵送し、従業員2名への回答を依頼した。
- 対象は原則として、雇用期間の定めがないフルタイム勤務である正規職員と、非正規職員1名ずつとした（選定が難しい場合を除く）。
- 回答は調査票への記入またはオンライン方式にて受け付けた。

実施手法	
送付先	2,179件
実施期間	2021年6月28日～7月20日（8月10日到着分までを集計）
有効回収数	2,072件
有効回収率	47.5%（※）

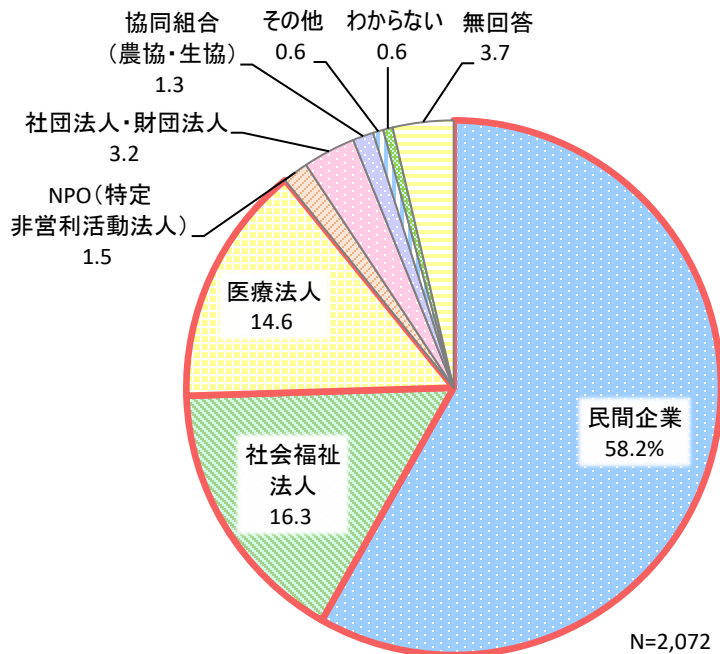
※1事業所につき従業員2人上限

❖	1	事業所の概要	4
❖	2	これまでの就労や離職状況概要	6
❖	3	現在の就労状況	7
❖	4	現在の処遇や希望（労働条件や労働環境等）	9
❖	5	今の仕事に関する考え	12
❖	6	利用者・家族等からのハラスメント	15
❖	7	外国人介護人材	16
❖	8	介護ロボット等	17
❖	9	介護人材の確保・育成・定着のための支援策の必要度と充実度	18
❖	10	回答者の属性	20

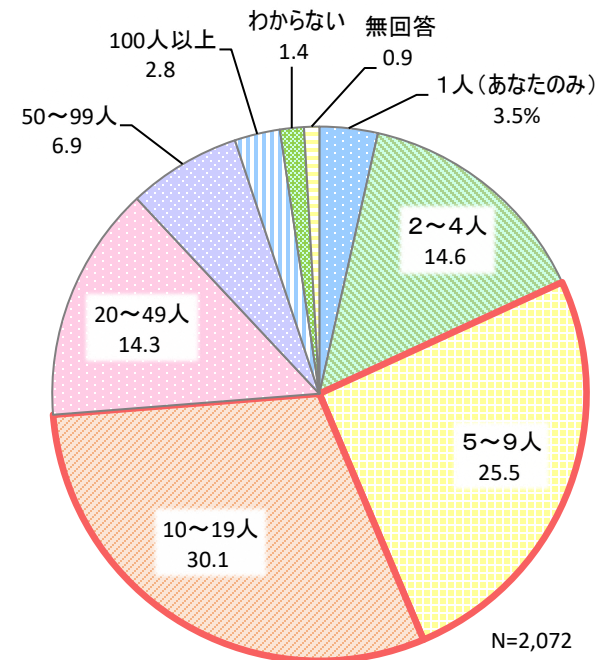
事業所の法人格と従業員数

- ❖ 事業所の法人格は「民間企業」の割合が最も高く(58.2%)、次いで「社会福祉法人」(16.3%)、「医療法人」(14.6%)となっている。
- ❖ 従業員数は、「10~19人」の割合が最も高く(30.1%)、続いて「5~9人」(25.5%)となっている。

▼事業所の法人格



▼事業所の従業員数



従事しているサービスの種類

- ❖ アンケート回答者が従事している介護保険の指定介護サービスの種類として最も多いのは「居宅介護支援」(18.1%)で、続いて「訪問介護」(16.3%)、「通所介護」(12.8%)となっている。

▼従事している主なサービス

介護サービスの種類		従業者数	構成比(%)
介護給付サービス	居宅サービス	1 訪問介護	251 16.3
		2 訪問入浴介護	8 0.4
		3 訪問看護	158 8.7
		4 訪問リハビリテーション	10 0.5
		5 居宅療養管理指導	3 0.2
		6 通所介護	200 12.8
		7 通所リハビリテーション	17 1.1
		8 短期入所生活介護	12 1.3
		9 短期入所療養介護	— 0.1
		10 特定施設入居者生活介護	31 2.1
		11 福祉用具貸与	42 3.2
		12 特定福祉用具の販売	3 0.2
	地域密着型サービス	13 地域密着型通所介護	162 9.7
		14 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	13 0.4
		15 夜間対応型訪問介護	— —
		16 認知症対応型通所介護	19 1.0
		17 小規模多機能型居宅介護	52 3.3
		18 複合型サービス(看護小規模多機能型居宅介護)	5 0.3
		19 認知症対応型共同生活介護	121 6.1
		20 地域密着型特定施設入居者生活介護	7 0.4
		21 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	9 0.6
		22 居宅介護支援	344 18.1
	施設サービス	23 介護老人福祉施設	100 4.4
		24 介護老人保健施設	16 0.8
		25 介護医療院(介護療養型医療施設)	3 0.1

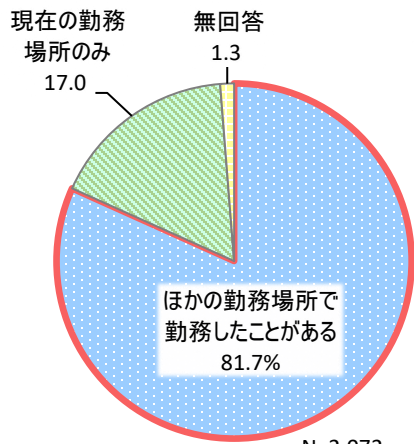
介護サービスの種類		従業者数	構成比(%)	
介護給付サービス	居宅サービス	26 介護予防訪問入浴介護	— —	
		27 介護予防訪問看護	5 0.3	
		28 介護予防訪問リハビリテーション	1 0.1	
		29 介護予防居宅療養管理指導	— —	
		30 介護予防通所リハビリテーション	11 0.6	
		31 介護予防短期入所生活介護	— —	
		32 介護予防短期入所療養指導	— —	
		33 介護予防特定施設入居者生活介護	2 0.1	
		34 介護予防福祉用具貸与	1 0.1	
		35 特定介護予防福祉用具の販売	— —	
		地域密着型サービス	36 介護予防認知症対応型通所介護	1 0.1
			37 介護予防小規模多機能型居宅介護	2 0.1
			38 介護予防認知症対応型居宅介護	1 0.1
			39 介護予防支援	64 3.2
		介護予防・日常生活支援総合事業	40 介護予防型訪問サービス	5 0.3
	41 生活支援型訪問サービス		1 —	
	42 介護予防型通所サービス		23 1.2	
	43 生活支援型通所サービス		3 0.2	
	無回答		366	1.9
	全体		2,072	100.0

2 これまでの就労や離職状況

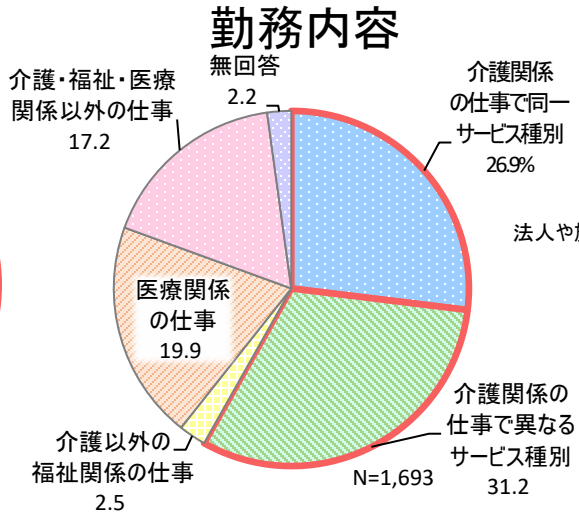
転職経験の有無、勤務箇所数、現在の仕事につく直前の勤務内容や辞めた理由

❖ 「これまでに他の勤務場所で勤務したことがある」と回答した人は、81.7%。勤務箇所数の平均は3.8箇所。現在の仕事につく直前の勤務内容は、「介護関係の仕事で異なるサービス種別」(31.2%)の割合が最も高く、次いで「介護関係の仕事で同一サービス種別」(26.9%)となっている。現在の仕事につく直前の勤務を辞めた理由は、「職場の人間関係に問題があったため」(16.7%)、「スキルアップのため」(15.9%)、「収入が少なかったため」(15.0%)と続いている。

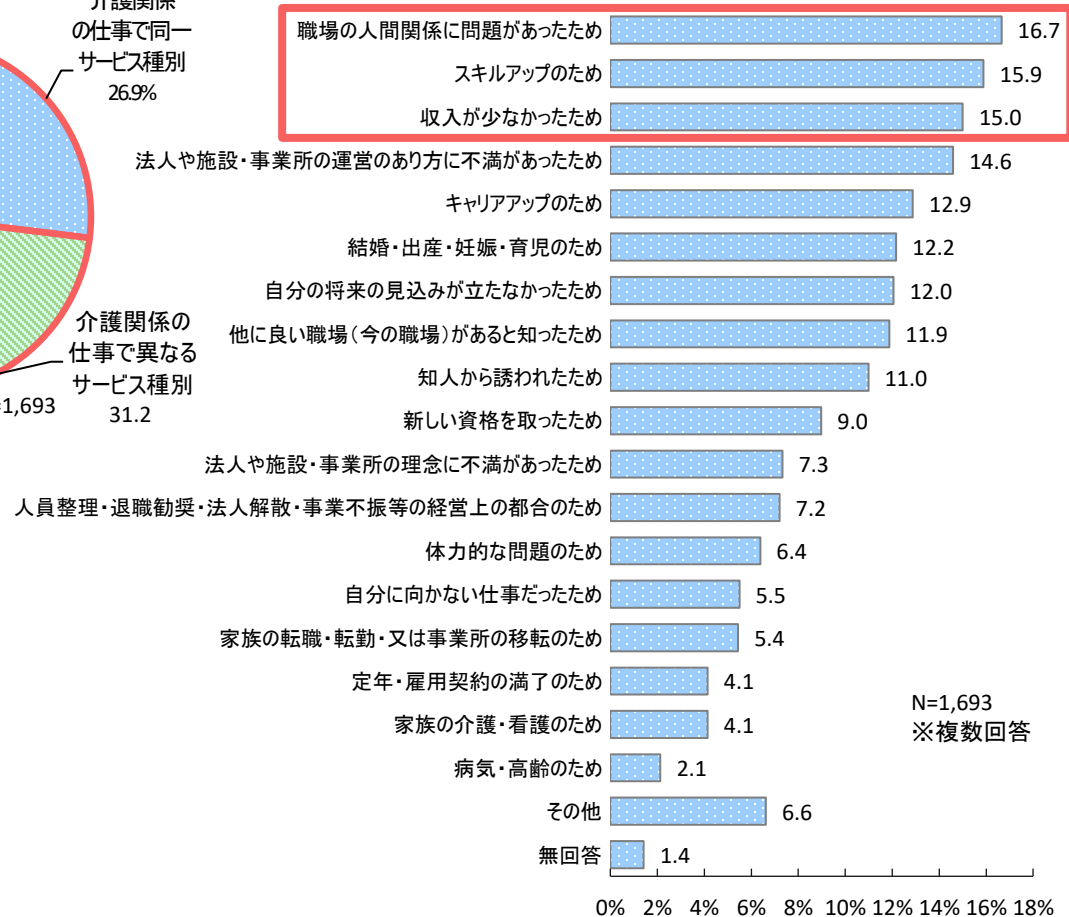
▼転職経験の有無



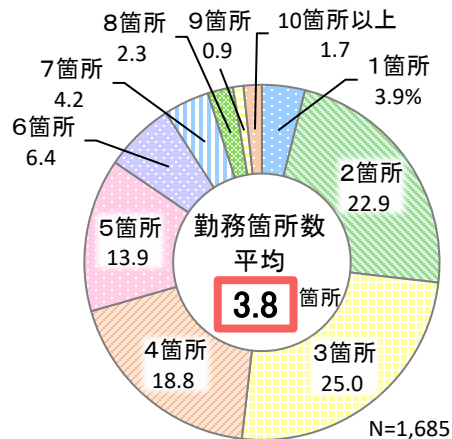
▼現在の仕事につく直前の勤務内容



▼現在の仕事につく直前の勤務を辞めた理由



▼勤務箇所数



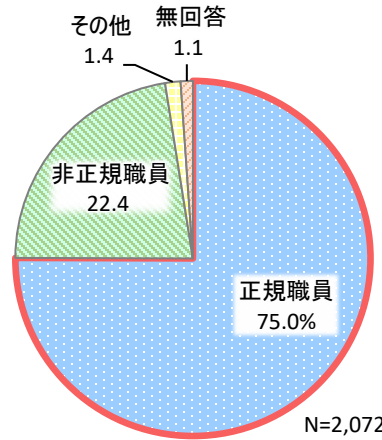
回答者の就業内容（勤務年数、就業形態、主な仕事（職種）、主な職位）

- 回答者の勤続年数の平均は6年7カ月で、「5年未満」が49.2%となっている。就業形態は、「正規職員」が75.0%を占めている。主な仕事（職種）は、「介護職員」(30.0%)の割合が最も高く、続いて「介護支援専門員（ケアマネジャー）」(19.9%)となっている。主な職位は「一般職・担当職」（60.7%）の割合が最も高い。

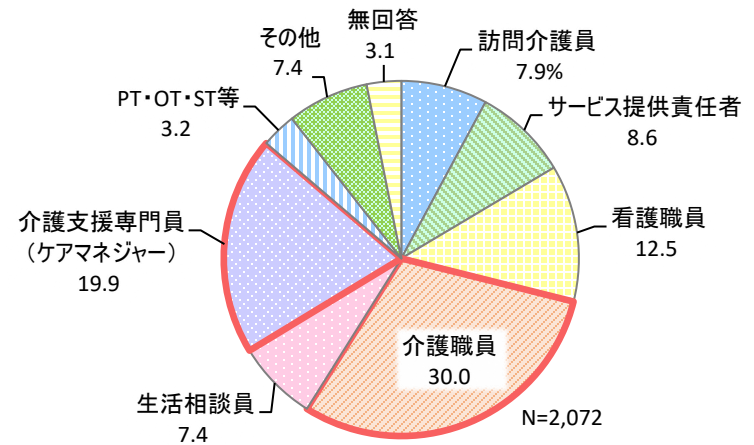
▼勤続年数

勤続年数	従業者数	構成比(%)
5年未満	1,019	49.2
5年以上10年未満	528	25.5
10年以上15年未満	277	13.4
15年以上20年未満	152	7.3
20年以上25年未満	44	2.1
25年以上30年未満	17	0.8
30年以上	7	0.3
無回答	28	1.4
全体	2,072	100
平均勤続年数	6年7カ月	

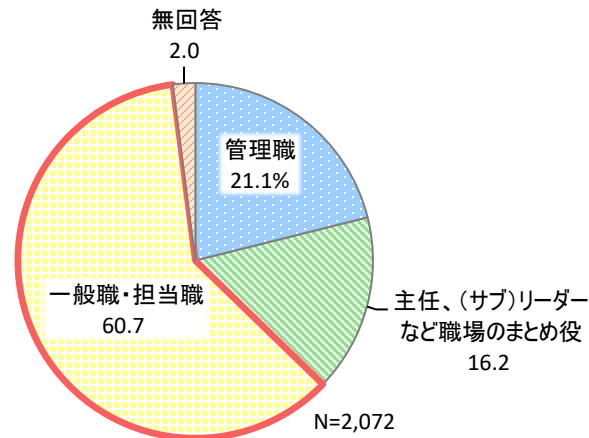
▼就業形態



▼主な仕事(職種)



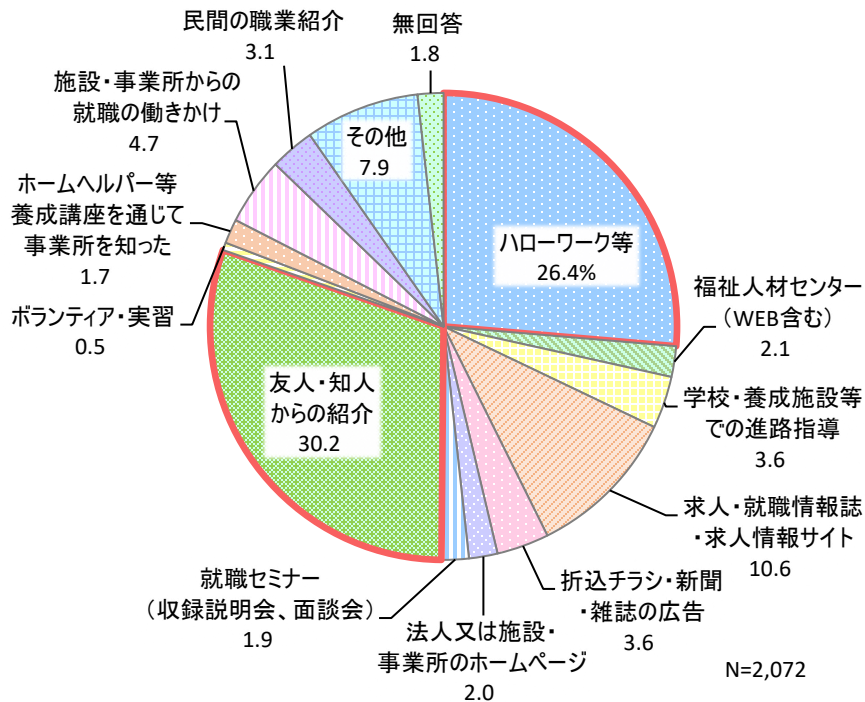
▼主な職位



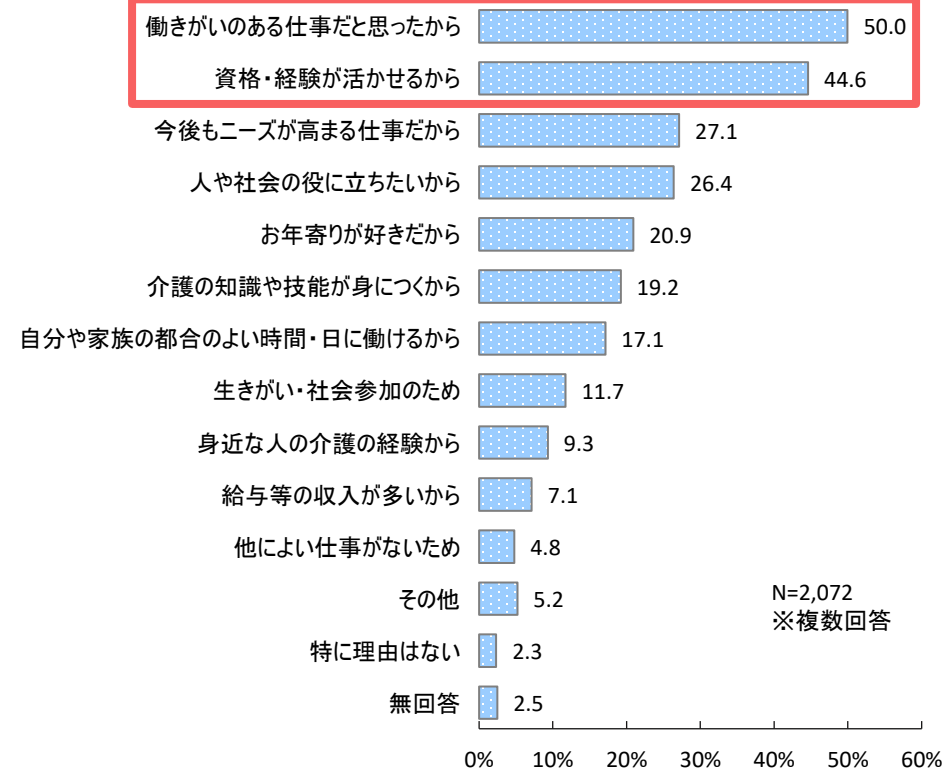
就職の決め手、現在の仕事を選んだ理由

- ❖ 就職の決め手は、「友人・知人からの紹介」の割合が最も高く(30.2%)、次いで「ハローワーク等」(26.4%)となっている。
- ❖ 現在の仕事を選んだ理由は、「働きがいのある仕事だと思ったから」の割合が最も高く(50.0%)、続いて「資格・経験が活かせるから」(44.6%)となっている。

▼就職の決め手



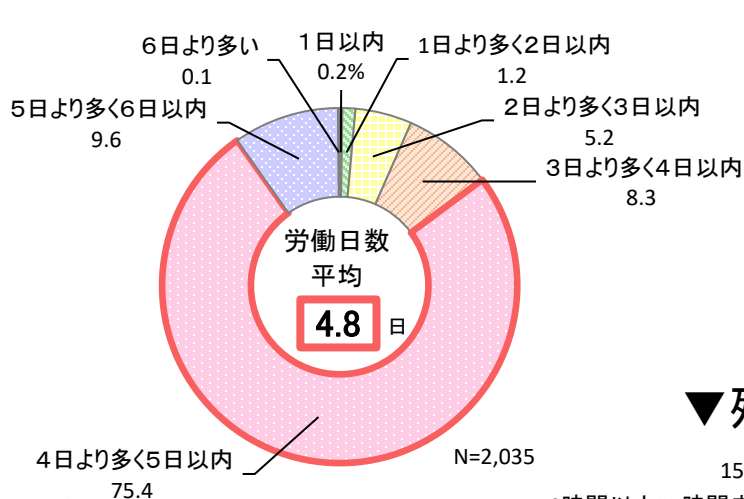
▼現在の仕事を選んだ理由



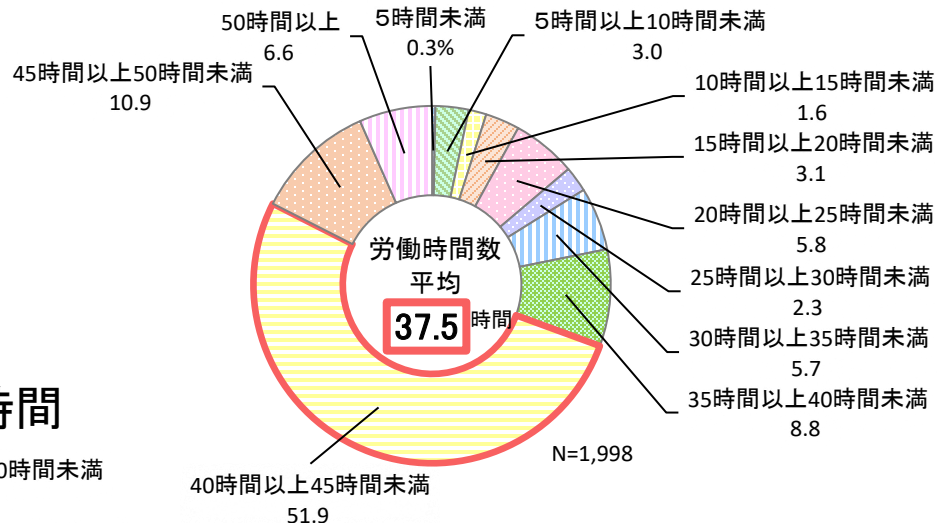
労働環境（労働日数、労働時間、残業時間）

- ❖ 労働日数は週平均で4.8日で、「4日より多く5日以内」の勤務と答えた人が全体の75.4%を占めている。
- ❖ 労働時間の平均は37.5時間で、「40時間以上45時間未満」と答えた人が51.9%となっている。
- ❖ 残業時間の平均は1.7時間で、「残業なし」と答えた人が63.1%となっている。

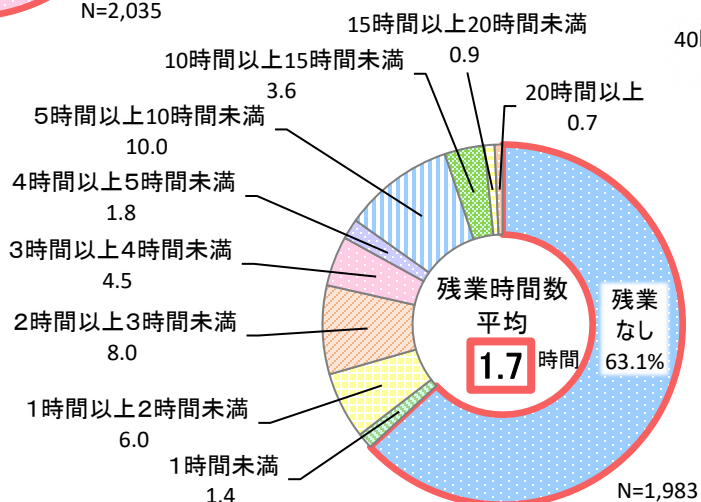
▼労働日数



▼労働時間



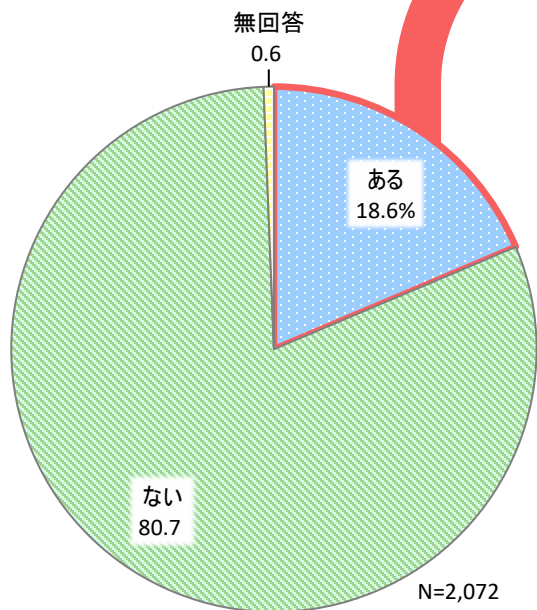
▼残業時間



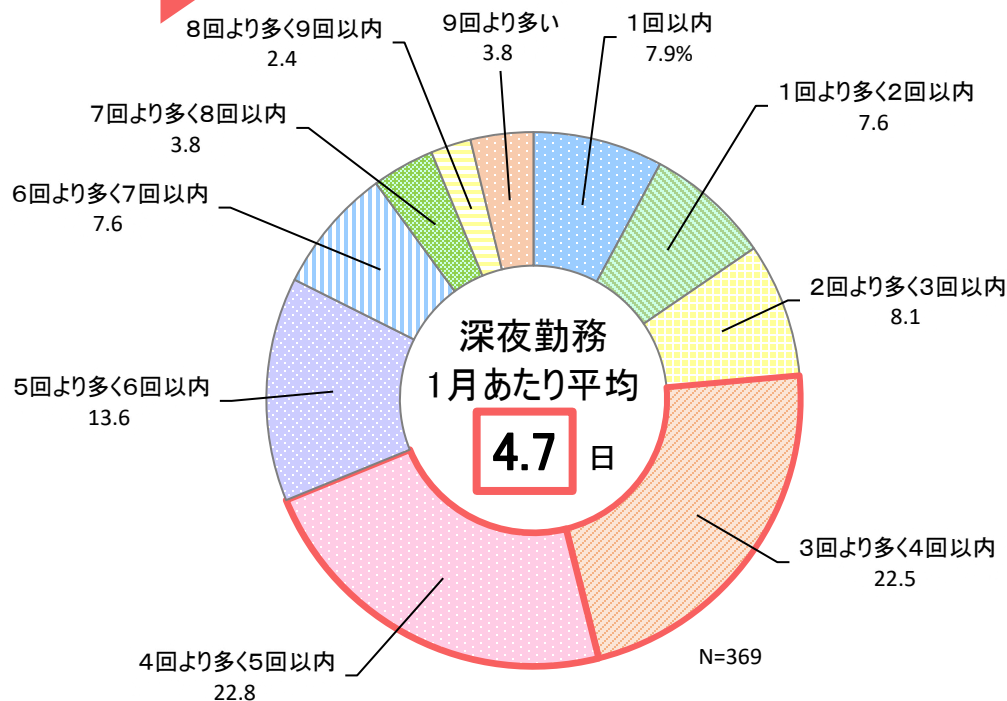
労働環境（深夜勤務の有無、深夜勤務回数）

- ❖ 深夜勤務の有無については、「ある」と答えた人が全体の18.6%を占めている。
- ❖ 「ある」と答えた人の深夜勤務回数は、「4回より多く5回以内」（22.8%）の割合が最も高く、次いで「3回より多く4回以内」（22.5%）となっている。月平均は、4.7日である。

▼深夜勤務の有無



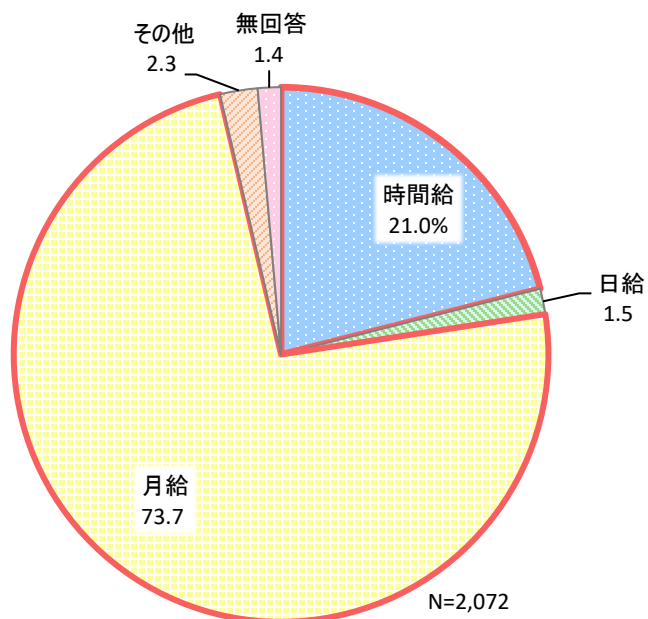
▼深夜勤務回数（月平均）



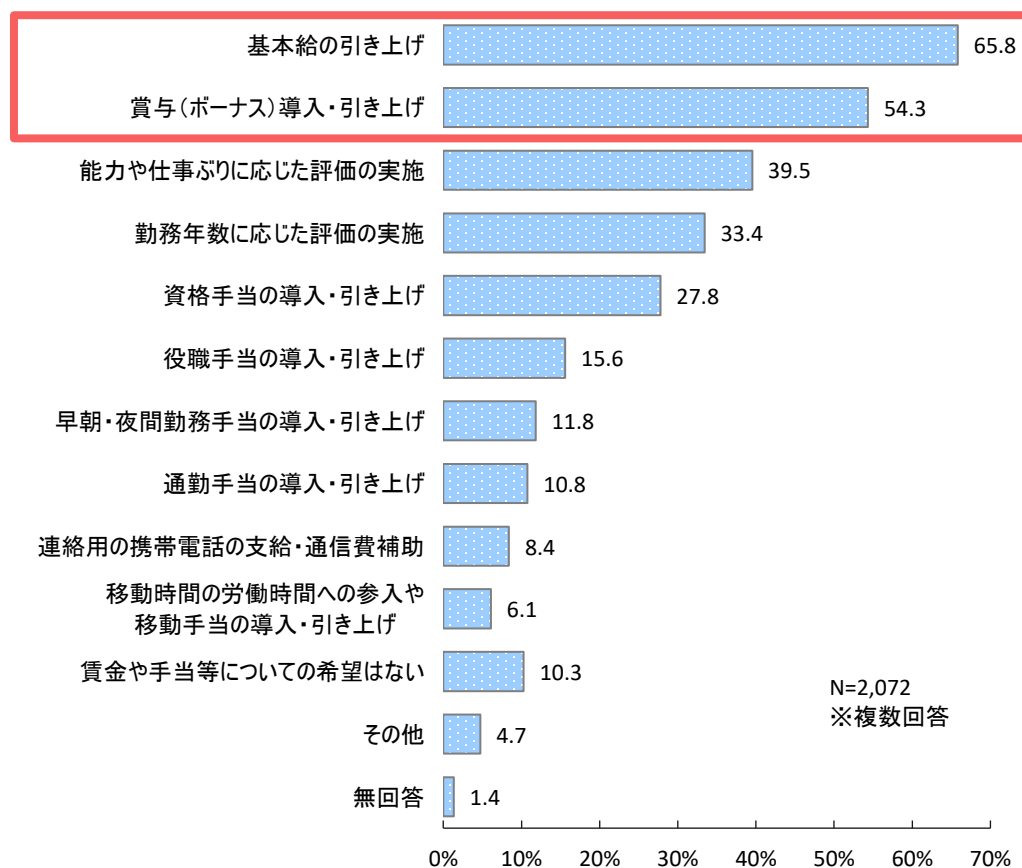
労働条件（賃金の支払形態、賃金・手当等についての希望）

- ❖ 賃金については、「月給」（73.7%）が最も多く、続いて「時間給」が21.0%となっている。
- ❖ 賃金・手当等についての希望は、「基本給の引き上げ」（65.8%）が最も高く、次いで「賞与（ボーナス）導入・引き上げ」（54.3%）となっている。

▼賃金の支払い形態

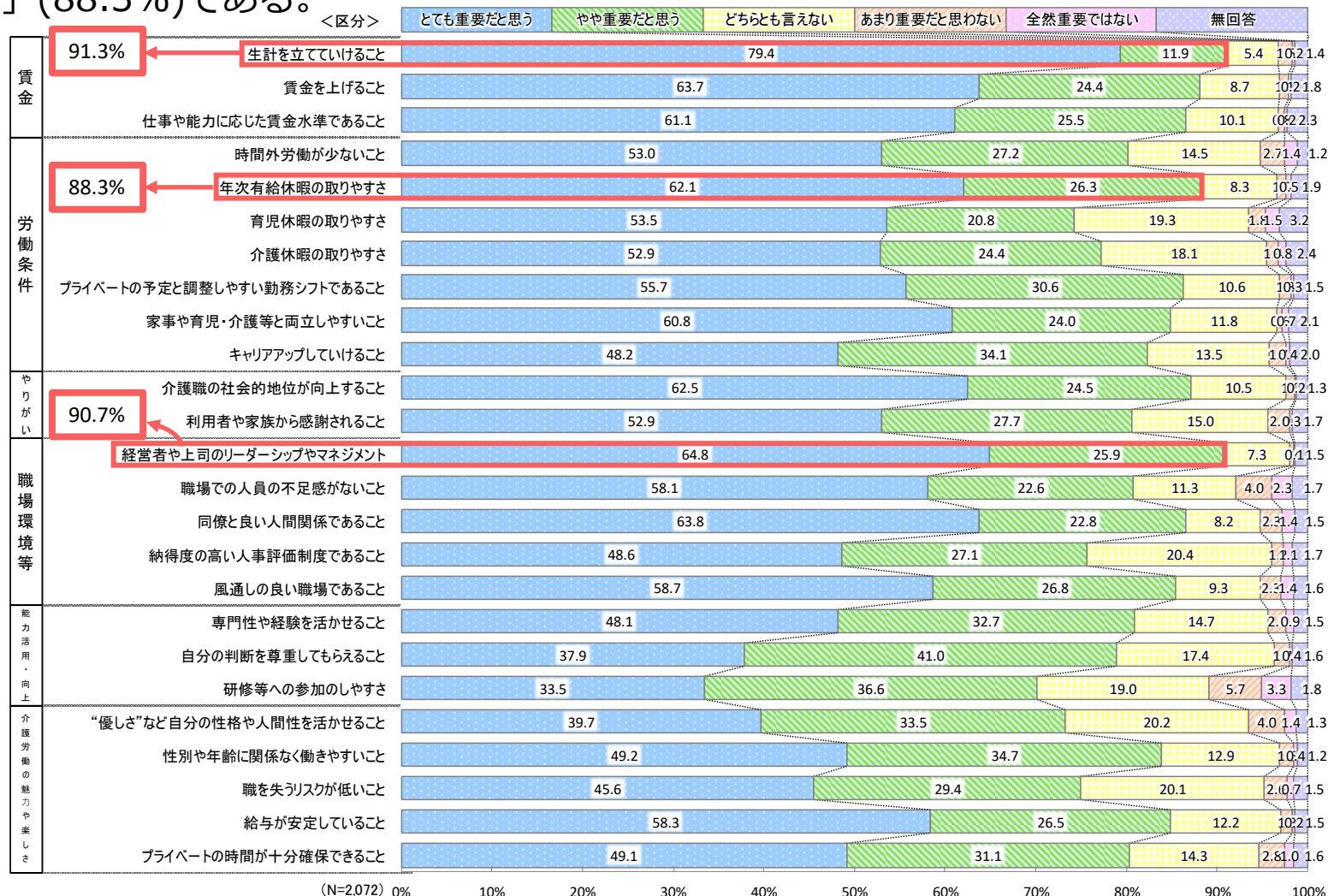


▼賃金・手当等についての希望



今の仕事における各要素や価値観に関する重要度

- 仕事において重要なことについて、「とても重要だと思う」+「やや重要だと思う」を合わせた『重要である』に多く選ばれたのは、「生計を立てていけること」(91.3%)、「経営者や上司のリーダーシップやマネジメント」(90.7%)、「年次有給休暇の取りやすさ」(88.3%)である。



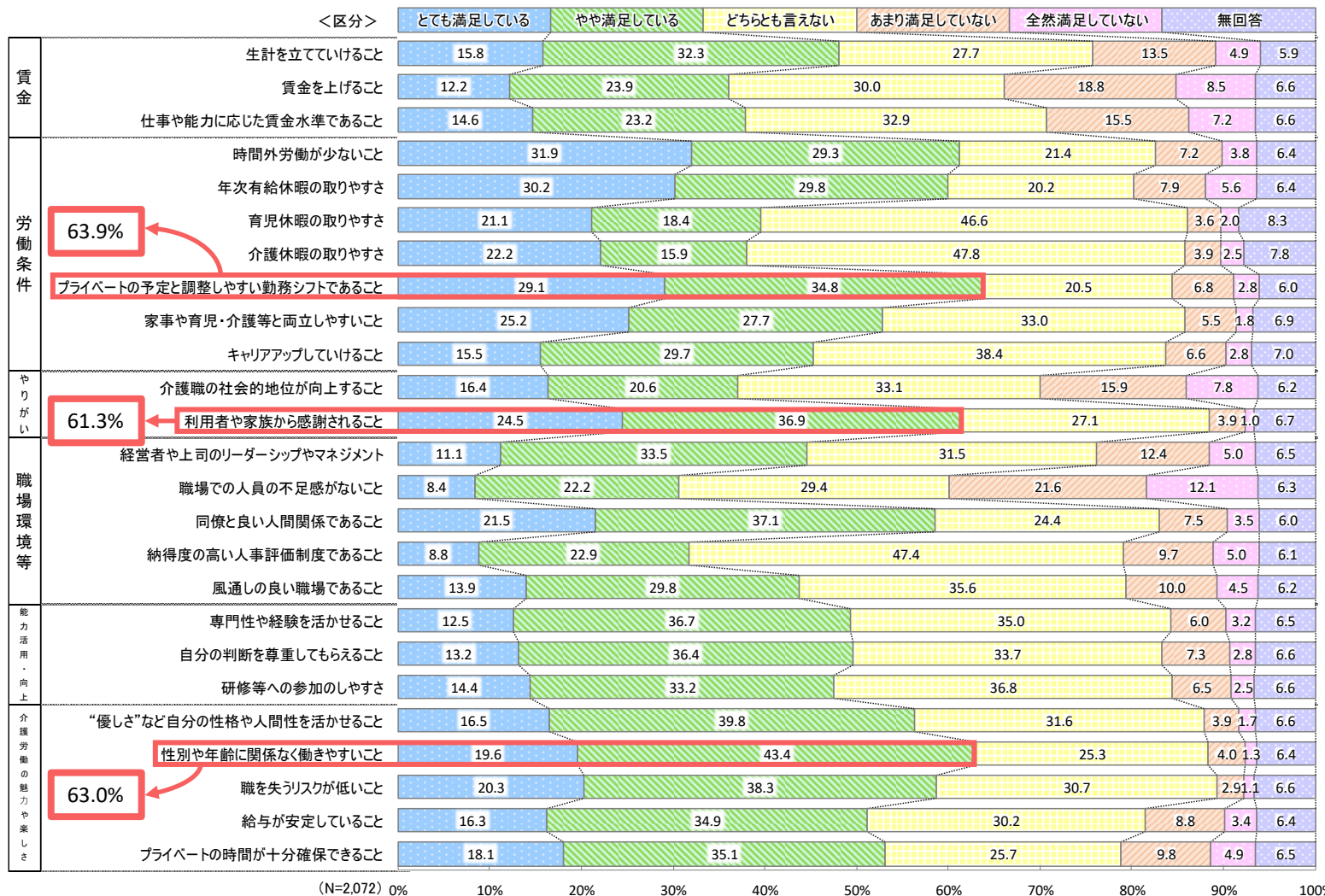
※小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の和が計の数値と合わない場合がある。

重要度

今の仕事における各要素や価値観に関する満足度

- ❖ 仕事において満足度の高い項目としては、「プライベートの予定と調整しやすい勤務シフトであること」(63.9%)、「性別や年齢に関係なく働きやすいこと」(63.0%)、「利用者や家族から感謝されること」(61.3%)などが挙げられた。

▶ 満足度

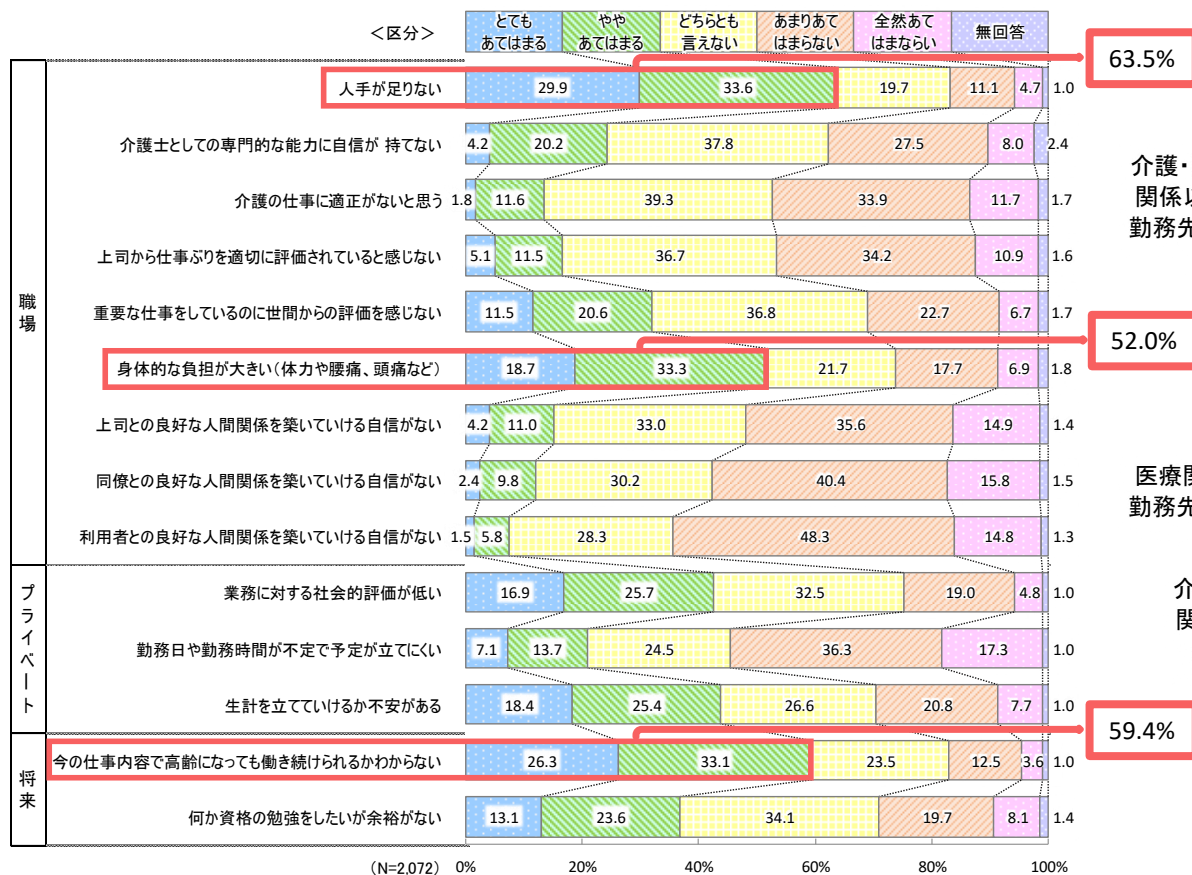


※小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の和が計の数値と合わない場合がある。

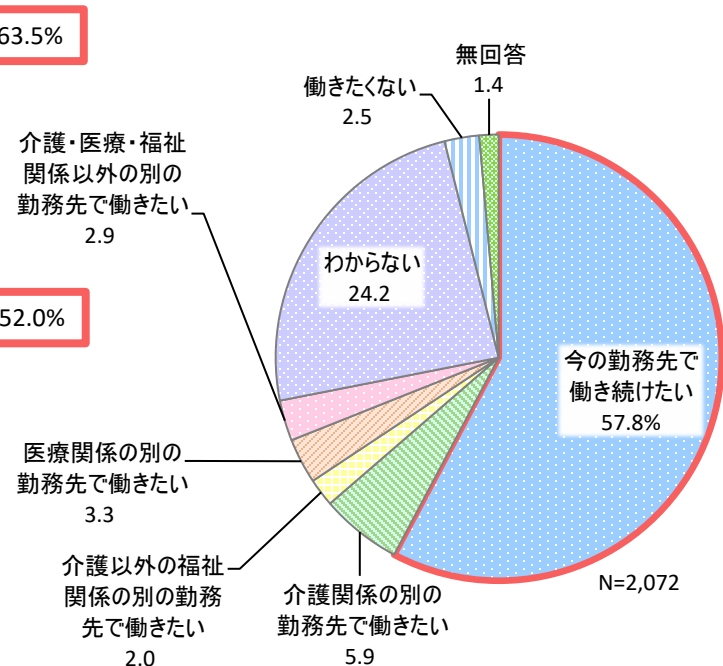
仕事上の悩み、勤務先に関する希望

- ❖ 仕事を継続する上での悩みとしては、「人手が足りない」(63.5%)、「今の仕事内容で高齢になっても働き続けられるかわからない」(59.4%)、「身体的な負担が大きい(体力や腰痛、頭痛など)」(52.0%)の順に多かった。
- ❖ 勤務先に関する希望については、「今の勤務先で働き続けたい」(57.8%)が最も多い。

▼仕事上の悩み



▼勤務先に関する希望

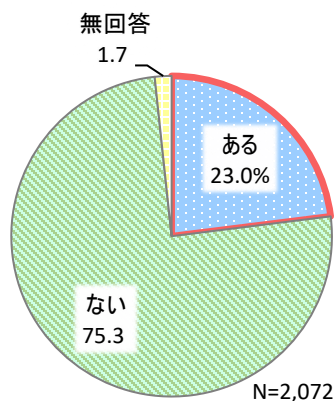


6 利用者・家族等からのハラスメント

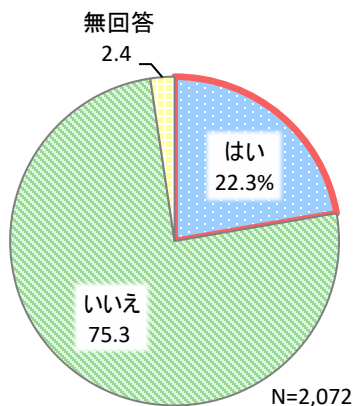
ハラスメントの有無、仕事を辞めたいと思ったことがあるか、実際に仕事を辞めたことがあるか、相談したことがあるか

- ❖ 利用者からのハラスメントを受けたことが「ある」と回答した人は、全体の23.0%、家族等からのハラスメントを受けたことが「ある」と回答した人は全体の8.8%であった。ハラスメントを受けて仕事を辞めたいと思ったことがある人は全体の22.3%、ハラスメントを受けて実際に仕事を辞めたことがある人は7.8%、ハラスメントを受けた時に、「内容によっては相談した」人は32.2%で、「些細な内容でも相談した」人は15.4%となっている。

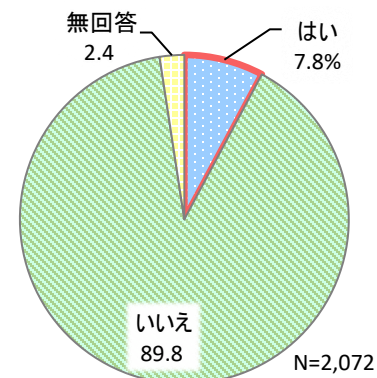
▼利用者からのハラスメント



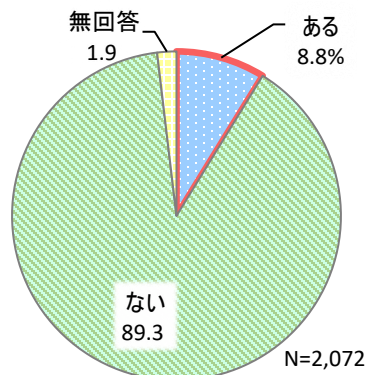
▼ハラスメントを受けて仕事を辞めたいと思ったことがあるか



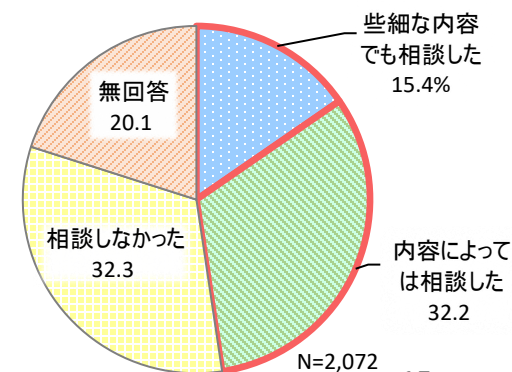
▼ハラスメントを受けて実際に仕事を辞めたことがあるか



▼家族等からのハラスメント



▼相談したことがあるか

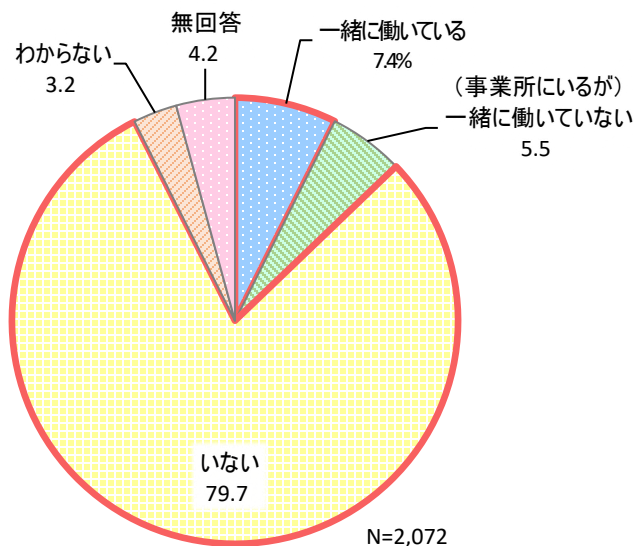


※ハラスメントとは、身体的暴力・精神的暴力・セクシャルハラスメントを指す

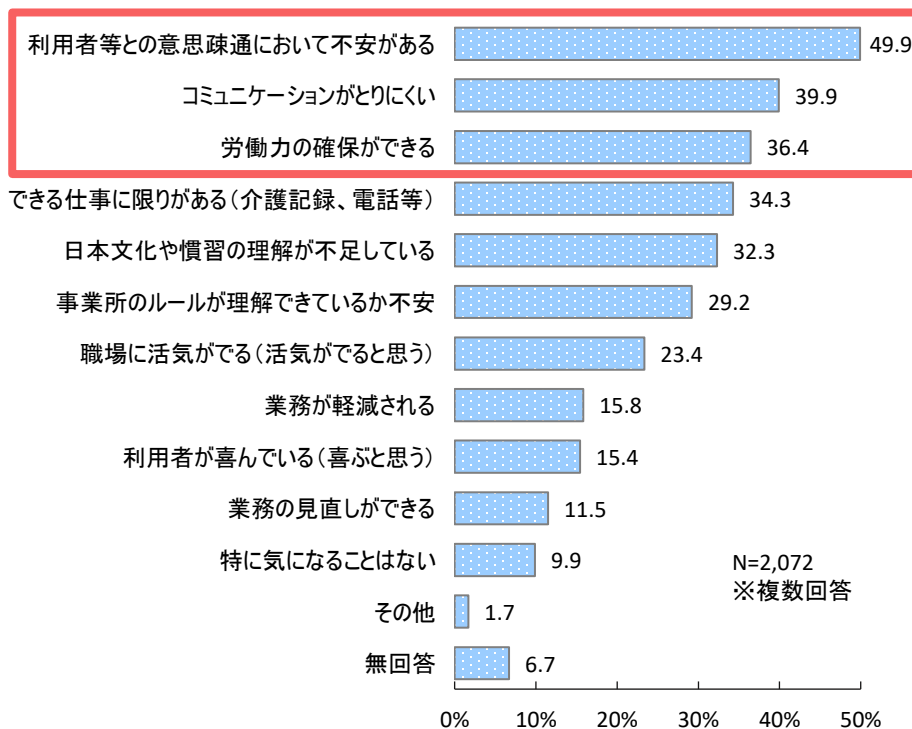
外国人介護人材の有無、外国人介護人材と一緒に働くことについて

- ❖ 職場において外国人介護人材が「いない」と回答した人は、全体の79.7%、「一緒に働いている」が7.4%であった。
- ❖ 外国人介護人材と一緒に働く上で感じることについては、「利用者等との意思疎通において不安がある」(49.9%)の割合が最も高く、次いで「コミュニケーションがとりにくい」(39.9%)、「労働力の確保ができる」(36.4%)となっている。

▼外国人介護人材の有無



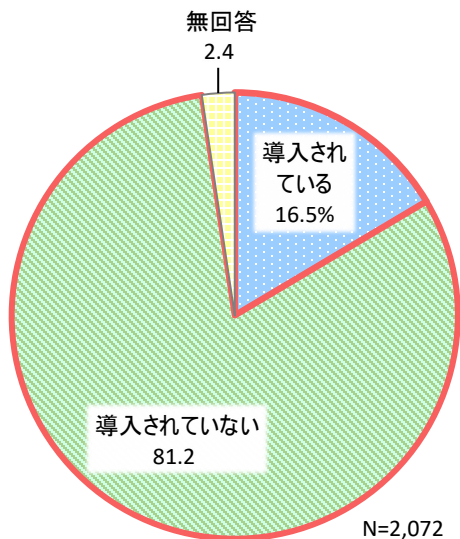
▼外国人介護人材と一緒に働くことについて



介護ロボット・ICTの導入、介護ロボット・ICTについて感じる事

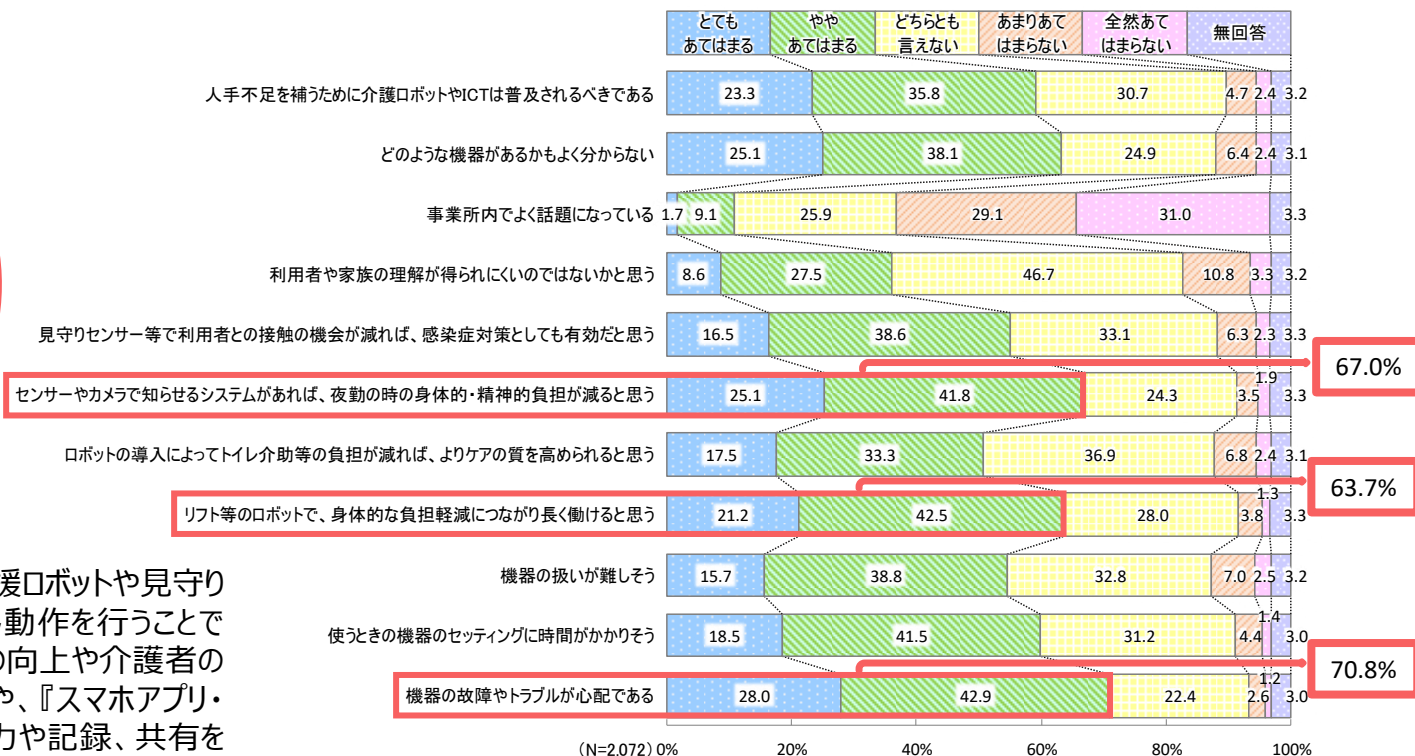
- ❖ 介護ロボット・ICTの導入状況について、「導入されていない」(81.2%)が最も多く、次いで「導入されている」(16.5%)となっている。
- ❖ 介護ロボット・ICTに感じる事について、「とてもあてはまる」+「ややあてはまる」と回答した人の割合をみると、「機器の故障やトラブルが心配である」(70.8%)、「センサーやカメラで知らせるシステムがあれば、夜勤の時の身体的・精神的負担が減ると思う」(67.0%)、「リフト等のロボットで、身体的な負担軽減につながり長く働けると思う」(63.7%)の順に多かった。

▼介護ロボット・ICTの導入



※介護ロボット・ICTとは、『移乗系支援ロボットや見守りセンサーなど、情報を感知・判断し動作を行うことで利用者の自立支援など介護の質の向上や介護者の負担の軽減に役立つ介護機器』や、『スマホアプリ・タブレット等の活用により情報の入力や記録、共有をスムーズにするなど介護の質の向上や介護者の負担の軽減等に役立つ情報通信技術』を指す。

▼介護ロボット・ICTについて感じる事

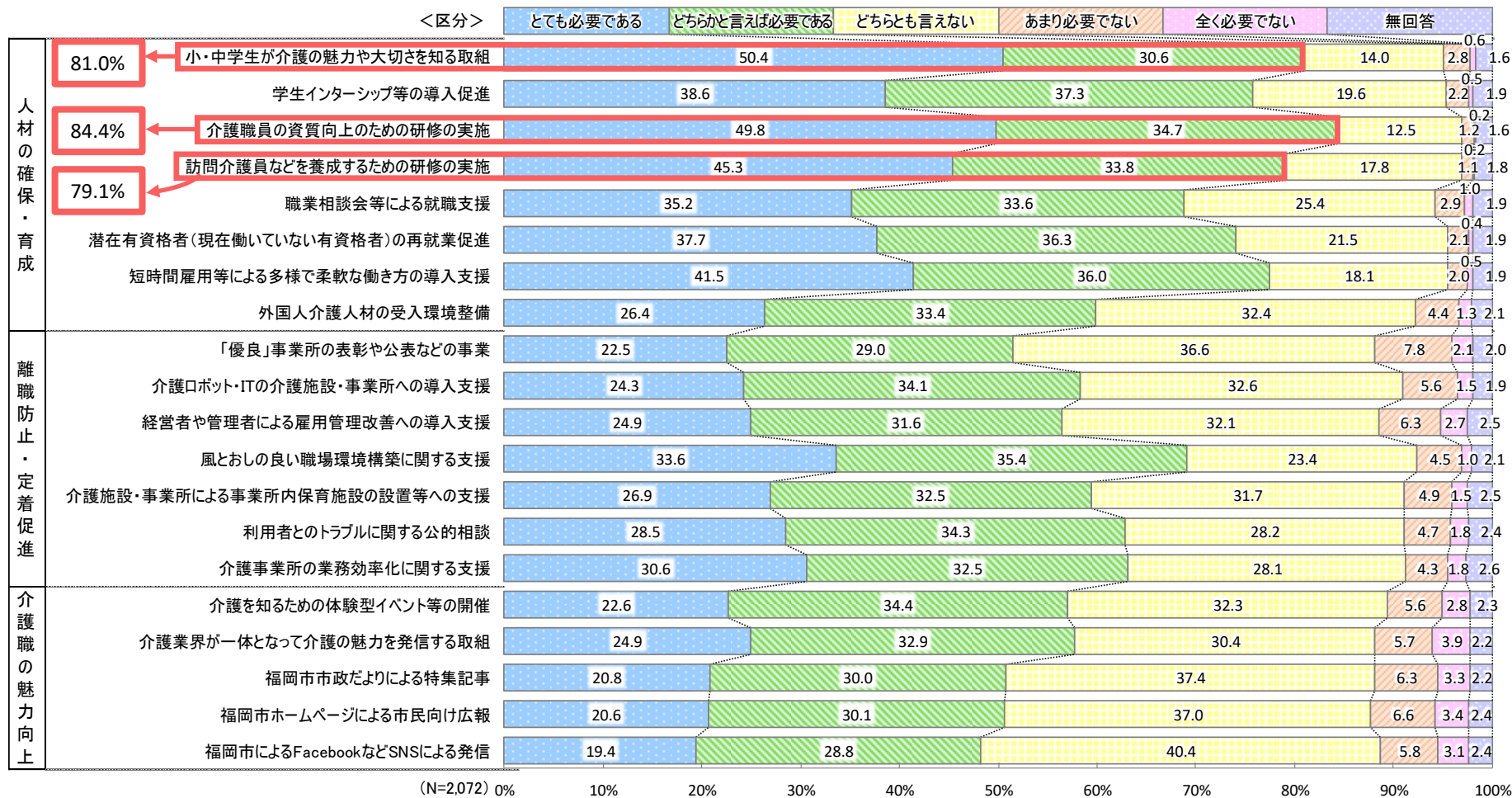


※小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の和が計の数値と合わない場合がある。 17

9 介護人材の確保・育成・定着のための支援策の必要度と充実度 各支援策の必要度について

- ❖ 介護人材の確保・育成・定着のための各支援策の必要度について聞いたところ、「とても必要である」+「どちらかと言えば必要である」を合わせた『必要である』の上位に挙げたのは、「介護職員の資質向上のための研修の実施」(84.4%)、「小・中学生が介護の魅力や大切さを知る取組」(81.0%)、「訪問介護員などを養成するための研修の実施」(79.1%)であった。

▼必要度

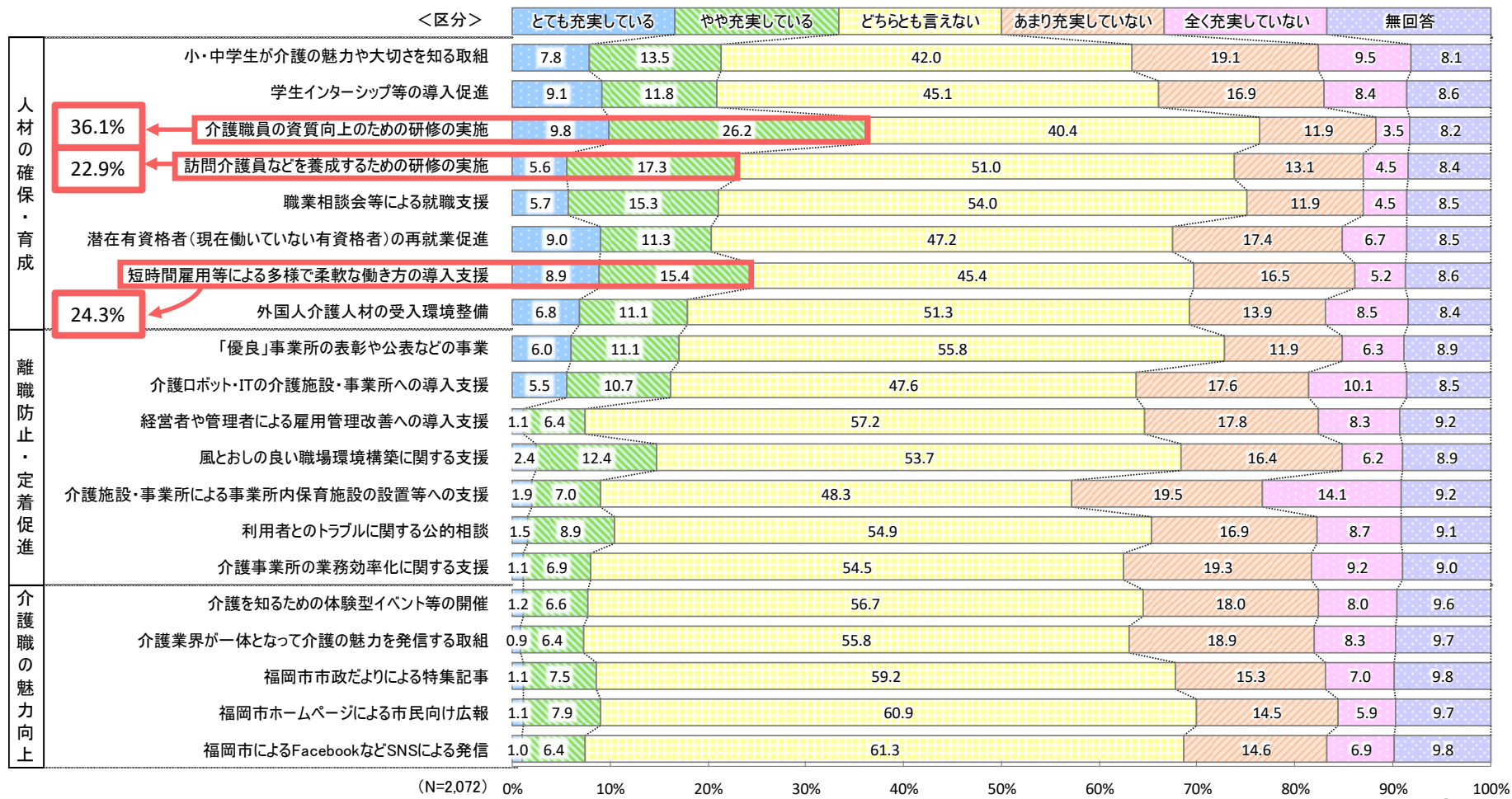


※小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の和が計の数値と合わない場合がある。

各支援策の充実度について

- ❖ 介護人材の確保・育成・定着のための各支援策の充実度について聞いたところ、「とても充実している」+「やや充実している」を合わせた『充実している』の上位に挙がったのは、「介護職員の資質向上のための研修の実施」(36.1%)、「短時間雇用等による多様で柔軟な働き方の導入支援」(24.3%)、「訪問介護員などを養成するための研修の実施」(22.9%)であった。

▼充実度

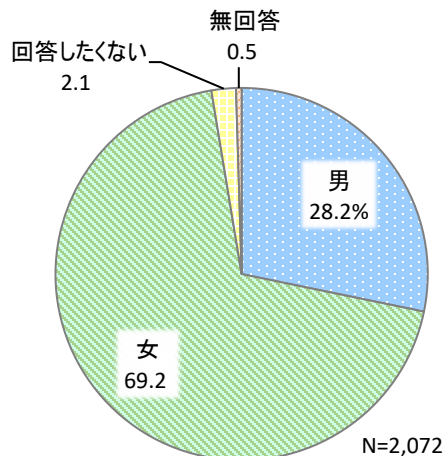


※小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の和が計の数値と合わない場合がある

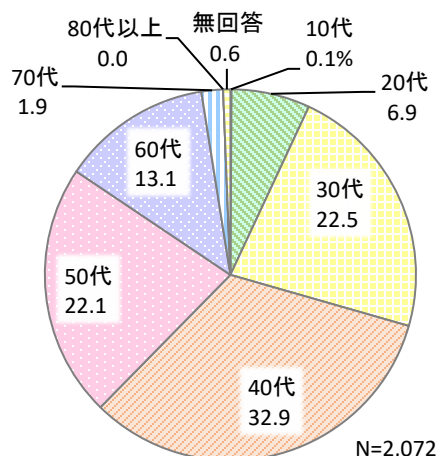
性別、年齢、資格、配偶関係、学校、経験年数

❖ 回答者の性別は、「女」(69.2%)、「男」(28.2%)となっている。年齢は、「40代」(32.9%)の割合が最も高い。資格については、「介護福祉士」(52.8%)の割合が最も高い。経験年数の平均は、11年11カ月である。

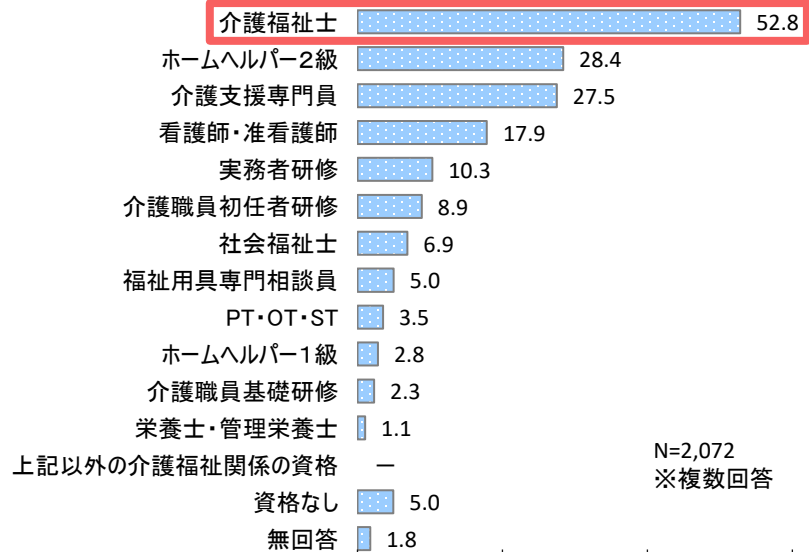
▼性別



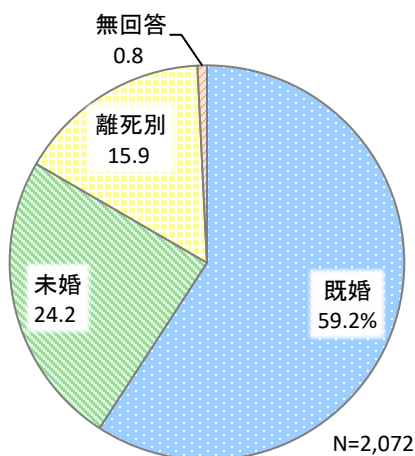
▼年齢



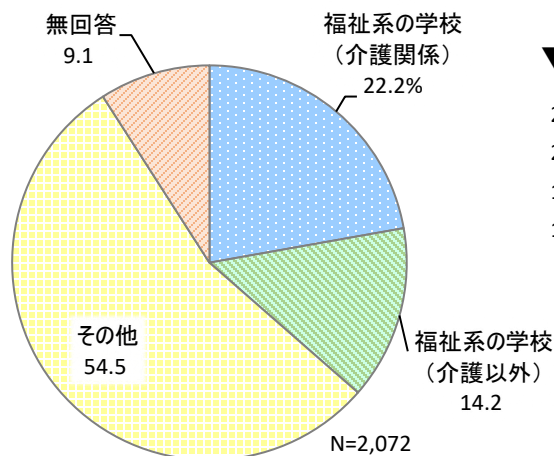
▼資格



▼配偶関係



▼学校



▼経験年数

